

平成20年(2008年)12月期決算

2009年2月10日



キリンホールディングス株式会社

◆ 2008年 決算概況

- 2008年決算総括
- セグメント別(定量・定性)
酒類 / 飲料・食品/ 医薬 / その他
- 経常利益、純利益の増減要因
- 貸借対照表の主要増減内容

◆ 2009年 業績見込み

- 2009年の業績見込み(概況)
- セグメント別(定量・定性)
酒類 / 飲料・食品/ 医薬 / その他
- 経常利益、純利益の増減要因
- 財務戦略(CF、投資計画、株主還元など)

◆ 参考資料

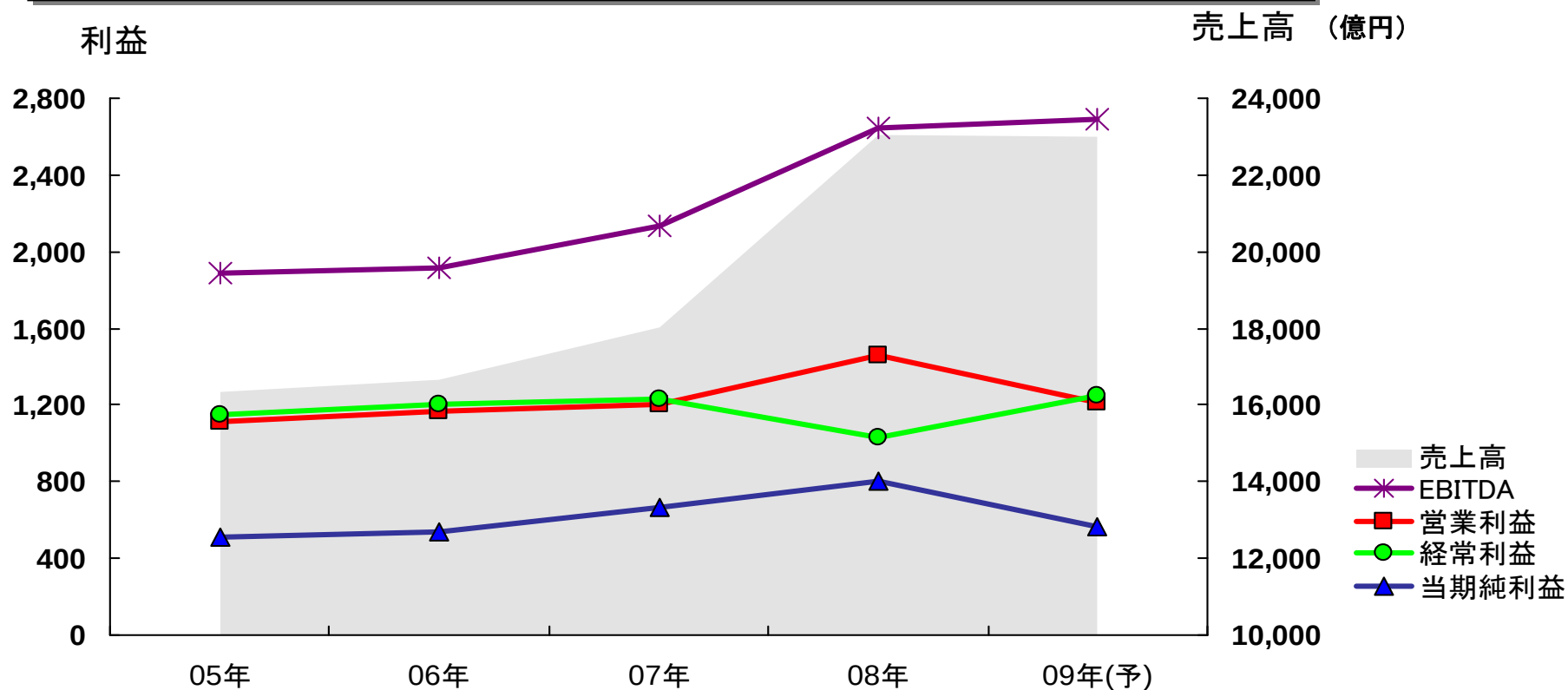
- ナショナルフーズ、ライオンネイサン、サンミゲル、
医薬事業パイプライン、のれん等償却一覧、グループ組織図



2008年 決算概況

業績の推移

連結： 2008年は売上高・営業利益・EBITDAが大きく成長



単位：億円	05年	06年	07年	08年	09年予想
売上高	16,322	16,659	18,011	23,035	23,000
営業利益	1,117	1,163	1,206	1,459	1,210
経常利益	1,148	1,208	1,233	1,030	1,250
当期純利益	512	535	667	801	570
EBITDA	1,884	1,911	2,131	2,646	2,691

EBITDA: 利払い前・税引き前・減価償却・その他償却前利益

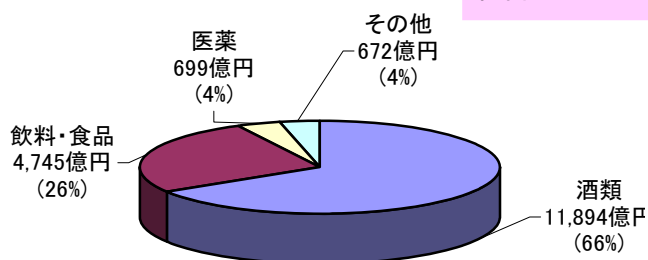
セグメント別売上高・営業利益 (07年 ⇒ 08年 ⇒ 09年予想)

■ 売上高

2008年は新規連結効果により飲料・食品と医薬が大きく成長

2007年

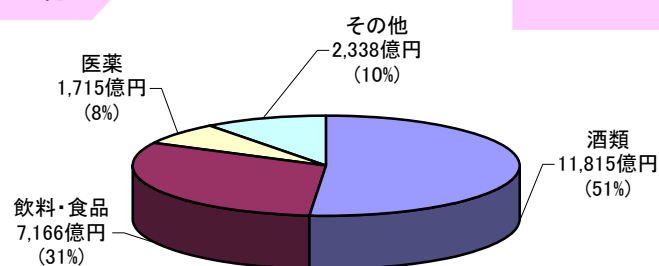
18,011億円



酒類: ▲79億円
飲料・食品: +2,421億円
医薬: +1,016億円
その他: +1,666億円
合計: +5,024億円

2008年

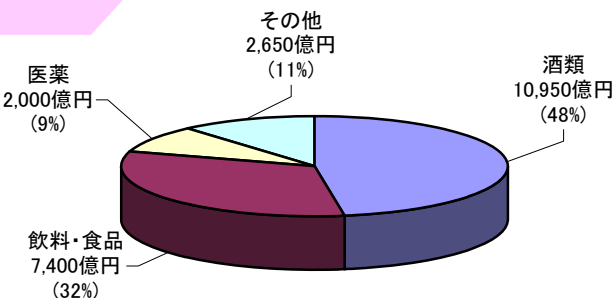
23,035億円



酒類: ▲865億円
飲料・食品: +234億円
医薬: +285億円
その他: +312億円
合計: ▲35億円

2009年予想

23,000億円



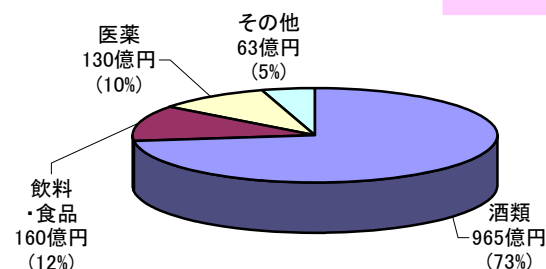
■ 営業利益

2008年は大幅増だが、2009年は為替の影響等で減少

2007年

1,206億円

(消去又は全社を除く: 1,319)

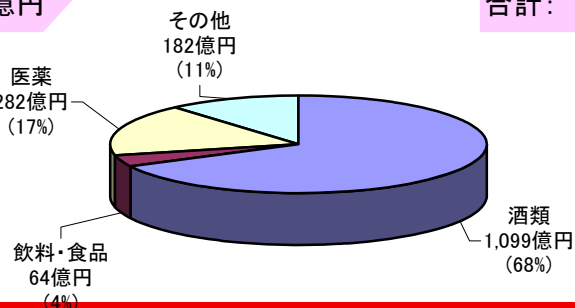


酒類: +134億円
飲料・食品: ▲96億円
医薬: +152億円
その他: +119億円
消去又は全社: ▲56億円
合計: +253億円

2008年

1,459億円

(消去又は全社を除く: 1,629)

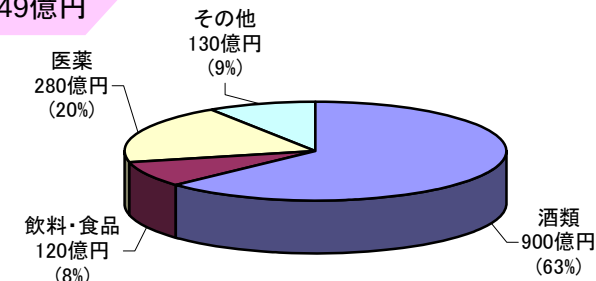


酒類: ▲199億円
飲料・食品: +56億円
医薬: ▲2億円
その他: ▲52億円
消去又は全社: ▲51億円
合計: ▲249億円

2009年予想

1,210億円

(消去又は全社を除く: 1,430)



2008年 決算総括 連結

●業務・資本提携等による企業規模(量)の拡大の実現

厳しい経営環境の下、マザービジネスである麒麟ビールの貢献などにより、3Q修正の営業利益目標を達成

事業ポートフォリオの進化により、過去最高の営業利益を更新

(億円)	08年実績	前年比	増減	07年実績	08年年初計画	08年3Q公表計画	達成率
売上高	23,035	+27.9%	+5,024	18,011	21,000	23,200	99.3%
営業利益	1,459	+21.0%	+253	1,206	1,330	1,450	100.7%
経常利益	1,030	▲16.5%	▲203	1,233	1,240	1,180	87.3%
当期純利益	801	+20.2%	+134	667	570	1,040	77.1%

※達成率は
対3Q公表計画

売上高

豪州ナショナルフーズ、協和発酵麒麟社の連結、海外酒類事業の好調等により増収

営業利益

国内外での原材料価格高騰や個人消費低迷の影響を受けたものの、海外酒類事業の好調、協和発酵麒麟社の連結、グループ全体でのコスト削減等により増益

経常利益

対豪ドルの急速な円高による為替差損の発生や、支払利息の増加等により減益

当期純利益

協和発酵工業社と麒麟ファーマ社との株式交換により発生した特別利益等により増加

酒類セグメント:2008年実績

酒類

(単位:億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	11,815	11,894	▲0.7%	▲79
連結営業利益	1,099	965	+13.9%	+134

営業利益は
全社・消去前

主な利益増減内容 (08年対07年)

会社名	要因	差異	内容
キリンビール	酒類限界利益増	77	ビール販売数量減 △133千kl △153億 発泡酒販売数量減 △12千kl △12億 新ジャンル販売数量増 62千kl 68億 RTD販売数量増 3千kl 5億 焼酎・洋酒・ワイン限界利益減 △5億 価格改定による増・品種構成による差異 他
	コストダウン	18	エネルギー削減 6億 他
	原材料コストアップ	△ 99	包装資材価格高 △30億 砂糖・液糖価格高 △29億 麦芽価格高 △25億 他
	販売費減	94	販売促進費・広告費減 83億 (ビール・発泡酒・新ジャンル 75億、RTD 2億、 焼酎・洋酒・ワイン 5億 他)
	その他費用増	△ 53	運搬費減 10億 他 減価償却費増 △32億 電力料・燃料費増 △19億 修繕費増 △2億 他
計		37	
ライオンネイサン	営業利益増	34	451億→485億
	のれん償却額	△ 12	△40億→△52億
	ブランド償却費	△ 5	△69億→△74億
計		17	
メルシャン		3	△3億 → △0億
組織改編による影響額		64	
その他		13	
合計		134	H19年度実績 965 → H20年度実績 1,099

国内

【キリンビール社】 減収▲・増益+

- ・急激に悪化する環境下で計画利益をクリア
- ・2月 ビ・発・新の価格改定を実施
- ・販促費、広告費を大幅に削減
- ・新ジャンル、発泡酒が好調

【メルシャン社】 減収▲・増益+

- ・ワイン販売数量:業界) 前年比±0%(推計)
メルシャン社) 前年比+5%
- ・キリンマーチャンダイジング社との連携を深め、デイリーワイン好調
- ・価格制度改革等により、収益構造の改善へ

海外

【ライオンネイサン社】 増収+・増益+

- ・売上高) LN社前年比: +6.5%(現地通貨ベース)
- ・プレミアムビールへの商品構成シフトが順調
- ・プレミアムブランドを展開するBoag's&Sonが売上に寄与
- ・9月までは為替レートが安定して推移:97.38円(07・96.72円)

【中国】

- ・販売数量は前年を下回る
- ・競争激化と原材料価格の高騰、経済環境悪化の影響

飲料・食品セグメント:2008年実績

飲料・食品

(単位:億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	7,166	4,745	+51.0%	+2,421
連結営業利益	64	160	▲59.9%	▲96

営業利益は
全社・消去前

国内

- 【キリンビバレッジ社】増収＋・減益▲(海外含む連結)
 ・容器ミックス改善(収益性向上に向けた施策へ転換)
 ・販促費、広告費: +3.5%
 (ブランドの定着に向けた投資&チャネルミックス悪化)
 ・キリンビール社との人事交流による事業活動ノウハウの共有化、
 自動販売機の設置活動等を協働で進める
- 【キリンフードテック社】
 ・中国に現地法人を設立「上海麒麟食科貿易有限公司」
- 【協和発酵フーズ社】
 ・原材料高騰や加工食品の需要低迷の影響で減収
- 【キリンヤクルトネクストステージ社】
 ・ヤクルト本社に移管予定

海外

- 【キリンビバレッジ社】
 ・販売数量: 前年比+13%
 ・「午後の紅茶ミルクティー」500mlペットが上海で引き続き好評
- 【ナショナルフーズ社】増収＋・減益▲
 ・販売数量: 前年比+2%
 ・生乳コストの上昇が利益を圧迫したが、下期は安定推移
 ・価格改定は順調に進む ・12月よりDF社を連結
- 【CCNNE社】増収＋・増益＋(現地通貨ベース)
 ・業績が順調に推移。連結では円高がマイナス 減収・減益

主な利益増減内容 (08年対07年)

会社名	要因	差異	内容
キリンビバレッジ	数量差異	18	販売数量増 169万ケース
	コストダウン	10	自工場製造効率アップ 他
	原材料コストアップ	△ 32	
	容器構成差異等	△ 1	
	販売費増	△ 47	販売促進費・広告費増 △42億(新規連結の影響 △13億 他)
			運搬費増 △5億 他
	その他費用増	△ 37	自動販売機投入増に伴う減価償却費増・販売機器費増 △6億、情報処理費増 △8億、研究開発費増 △2億、新規連結の影響 △19億 他
計		△ 89	
ナショナルフーズ	営業利益増	81	0→81億
	のれん償却額	△ 68	0→△68億
	ブランド償却費	△ 27	0→△27億
計		△ 14	
協和発酵キリン 食品		9	0→9億
その他		△ 2	
合計		△ 96	H19年度実績 160 → H20年度実績 64

医薬セグメント:2008年実績

おいしさを笑顔に

KIRIN

医薬

(単位:億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	1,715	699	+145.3%	+1,016
連結営業利益	282	130	+116.9%	+152

営業利益は
全社・消去前

国内

【協和発酵キリン社】

※08年4月以降、協和発酵社を連結
(10月～協和発酵キリン)

- ・主力製品売上
アレロック、パタノール等が順調
4月に発売したコバシルが好調に推移
ネスプ/エスポーは市場での着実なシェアアップを果たす
- ・開発
ネスプの適応拡大承認申請(保存期、がん化学療法に伴う貧血)
- ・ライセンス活動
RNAi医薬開発品等の導入、がん疼痛治療剤の共同販売権等の獲得、ポテリジェント抗体KW-0761の米国アムジェン社への導出

主な利益増減内容 (08年対07年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン	148	売上総利益増 735億 研究開発費増 △202億 その他費用増 △340億 のれん償却額 △45億
組織改編による影響額	4	
合計	152	H19年度実績 130 → H20年度実績 282

海外

【協和発酵キリン社】

- ・アジア現地法人
 - ー現地通貨ベースで前年を大幅に上回る業績を達成
 - ー為替の影響を受け、アジア現地法人6社合計で売上高は微増となった。(08年83億円)
 - ー各現地法人でネスプ等の承認申請中

その他セグメント:2008年実績

その他

(単位:億円)	08年実績	07年実績	前年比	増減
連結売上高	2,338	672	+247.9%	+1,666
連結営業利益	182	63	+188.8%	+119

営業利益は
全社・消去前

【協和発酵バイオ社】

- ・医薬、工業用原料のアミノ酸等が堅調に推移したが、急激な円高の影響により売上高は微増にとどまった

【協和発酵ケミカル社】

- ・上半期は主要製品の価格改定を行うなど順調に推移したが、秋口以降の世界的な景気減速と、原油・ナフサ価格の急落に伴う製品市況の悪化により、前年並みの売上高となった

【アグリバイオ事業】 減収▲、増益+

- ・海外子会社は順調に推移したが、輸入切花・原油高等の影響を受け、国内市場は苦戦

主な利益増減内容 (08年対07年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン バイオケミカル	74	0→74億
協和発酵キリン 化学品	35	0→35億
その他	10	
合計	119	H19年度実績 63 → H20年度実績 182

経常利益・当期純利益増減内容（2008年実績）

経常利益

営業外損益	金融収支	△ 111	△53億→△164億
	持分法による投資損益	15	サンミゲル 11億（うち株式売却に係る未実現利益消去△43億）、協和発酵工業 △12億（うち投資差額償却額 △10億）他
	為替差損	△ 365	△7億→△372億
	その他	5	
計		△ 456	
経常利益減		△ 203	H19年度実績 1,233 → H20年度実績 1,030

当期純利益

特別損益	固定資産売却益	△ 87	
	持分変動利益	726	協和発酵工業株式交換
	収用等補償金	95	
	投資有価証券評価損	△ 56	
	事業整理損失	△ 27	
	統合関連費用	△ 46	協和発酵工業、キリンファーマ統合 他
	その他	△ 29	のれん償却額 △15億 他
計		576	
法人税等及び少数株主利益	法人税等	△161	
	過年度法人税等	△20	ライオンネイサン
	少数株主利益	△58	
計		△ 239	
当期純利益増		134	H19年度実績 667→ H20年度実績 801

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成19年度実績	平成20年度実績
ライオンネイサン（オーストラリアドル）（円）	96.72	97.38
ナショナルフーズ（オーストラリアドル）（円）	99.01	88.00
サンミゲル（フィリピンペソ）（円）	2.51	2.50

貸借対照表の主要増減内容

- 協和発酵キリン社の新規連結による流動資産、有形・無形固定資産、流動負債・固定負債の増加
- 関連会社株式の減少および株価変動による評価差額の減少などによる投資有価証券の減少
- 短期借入金を長期借入金の調達や社債の発行により返済し、短期借入金が増加、長期借入金・社債が増加

		平成19年度	平成20年度	増減	内容
資 産	受取手形及び売掛金	3,611	4,466	855	・新規連結子会社増による増加 他
	その他流動資産計 (受取手形及び売掛金除く)	2,735	3,795	1,060	・新規連結子会社増による増加 他
	有形固定資産計	6,359	7,913	1,554	・新規連結子会社増による増加 他
	のれん	2,587	3,439	852	・新規連結子会社増による増加 他
	その他	1,281	1,054	△ 227	・豪州連結子会社の為替影響による減少 他
	投資有価証券	7,122	4,253	△ 2,869	・キリンホールディングス保有関連会社株式の減少、及びキリンホールディングス保有株式の株価変動による評価差額の減少に伴う減少 他
負 債	その他	578	871	293	・キリンホールディングスの通貨スワップの増加 他
	支払手形及び買掛金	1,392	1,895	503	・新規連結子会社増による増加 他
	短期借入金	4,047	1,191	△ 2,856	・キリンホールディングスの減少 他
	1年以内償還社債	—	441	441	・キリンホールディングスの増加 他
	社債	928	2,428	1,500	・キリンホールディングス社債発行による増加 他
	長期借入金	1,122	2,577	1,455	・キリンホールディングスの増加 他
純 資 産	繰延税金負債	883	557	△ 326	・新規連結子会社増による増加 及びキリンホールディングス保有株式の株価変動による評価差額の減少に伴う減少 他
	退職給付引当金	601	827	226	・新規連結子会社増による増加 他
	その他有価証券評価差額金	1,247	374	△ 873	・キリンホールディングス保有株式の株価変動による評価差額の減少 他
	為替換算調整勘定	76	△ 887	△ 963	・円高による減少 他
	少数株主持分	447	2,220	1,773	・新規連結子会社増による増加 他

2009年 業績見込み

2009年度 業績見込み(概況) 連結

質(収益性)重視の展開

為替や会計制度変更等による影響はあるが、シナジーの創出やマーケティング費・経費等のコスト削減により、着実に収益基盤の強化を図る

単位: 億円	09年目標	前年比	前年比増減	修正中計 09年目標	08年実績
売上高	23,000	▲0.2%	▲35	25,000	23,035
営業利益	1,210	▲17.1%	▲249	1,750	1,459
経常利益	1,250	+21.3%	+220	—	1,030
当期純利益	570	▲28.9%	▲231	—	801

営業利益 09年目標と08年実績の差異▲249億円の主な理由

- ・在外子会社為替換算の影響 ▲約160億円(主にライオンネイサン関連)
- ・会計制度変更等による影響 ▲約100億円 キリンビール社製造設備の減価償却費耐用年数変更他
- ・主力事業会社の原材料コストアップ ▲約25億円(キリンビール社) ▲約30億円(キリンビバレッジ社)
- ・販促費、広告費の削減 キリンビール社+49億円他

修正中計営業利益目標1,750億円と09年目標1,210億円との差異▲540億円の主な理由

- ・在外子会社為替換算の影響 ▲約160億円(主にライオンネイサン関連)
- ・協和発酵キリン社 ▲約200億円 (医薬▲100億円、バイオケミカル・化学▲100億円)
- ・豪州乳業事業の生乳コスト高、デアリーファーマーズ買収等 ▲約60億円
- ・国内飲料事業 ▲約40億円 数量・容器差異(▲要因)、販促広告費削減(+要因) 他

酒類セグメント:2009年計画

酒類

(単位:億円)	09年予想	08年実績	前年比	増減
連結売上高	10,950	11,815	▲7.3%	▲865
連結営業利益	900	1,099	▲18.2%	▲199

【麒麟ビール社】

- ・ビ・発・新 販売目標(数量): 前年比▲0.5%
- ・エビデンスマーケティング(価値・機能の明確な商品)の展開
- ・定番商品の強化・「一番搾り」リニューアル、「麒麟 淡麗〈生〉」「のどごしく生」の強化
- ・健康志向の対応強化・プリン体99%カット、ホリフェノール配合の「淡麗ダブル」発売
- ・総需要の拡大・アルコール0.00%の「麒麟 フリー」発売
- ・あらゆるバリューチェーンで具体的シナジーの創出を図る
- ・引き続き販促費・広告費等の削減に取り組む

【メルシャン社】

- ・ワイン販売数量目標: 前年比+2%
- ・メルシャンブランドの強化・引き続き収益構造の改善を進める

アジア・オセアニア地域を中心に、 総合飲料グループ戦略を推進

【中国】

- ・麒麟(中国)投資社を中心に展開

【ライオンネイサン社】

- ・過去3年にわたるブランド強化、設備投資でより強固になった事業基盤を活かして、長期的な成長を目指す

【サンミゲル社】

- ・戦略的提携を強化

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	要因	差異	内容
麒麟ビール	酒類限界利益増	21	ビール販売数量減 △65千kl △77億 発泡酒販売数量減 △21千kl △21億 新ジャンル販売数量増 74千kl 81億 RTD販売数量増 19千kl 19億 清涼発泡飲料増 8億 焼酎・洋酒限界利益増 2億 価格改定影響、品種構成による差異 他
	コストダウン	2	エネルギー削減 2億 他
	原材料コストアップ	△ 25	麦芽高、包装資材価格高 他
	販売費減	62	販売促進費・広告費減 49億 運搬費減 12億 他
	その他費用増	△ 117	減価償却費増 △68億 情報システム費増 △7億 電力料・燃料費増 △7億 他
計		△ 57	
ライオンネイサン		△ 142	為替差異 他
その他		0	メルシャン 12億 他
合計		△ 199	H20年度実績 1,099 → H21年度予想 900

飲料・食品セグメント:2009年計画

飲料・食品

(単位: 億円)	09年見込み	08年実績	前年比	増減
連結売上高	7,400	7,166	+3.3%	+234
連結営業利益	120	64	+86.6%	+56

営業利益は
全社・消去前

国内

【麒麟ビバレッジ社】

- ・販売目標(数量): 前年比 +1%
- ・収益基盤の構築・販促費の効率的な運用、生産性の向上、費用管理マネジメントの抜本的改革(営業本部組織変更)
- ・新たな競争軸の強みづくり・リサーチマーケティングの高度化、研究開発体制強化
- ・麒麟ビール社との連携のさらなる強化
- ・飛躍的成長に向けたM&A・アライアンスの推進

【麒麟協和フーズ社】09年4月発足

- ・円滑な新体制の立ち上げと早期の統合効果実現に努め、食品素材業界における市場プレゼンスの向上をはかる

海外

【麒麟ビバレッジ社】

- ・中国: 総合飲料グループ戦略の推進
- ・ベトナム: 下期より製造販売開始
- ・タイ: 新カテゴリーによるポートフォリオの強化

【ナショナルフーズ社】

- ・デアリーファーマーズ社との統合、具体的な取り組みに着手
- ・製造設備の統廃合、原材料調達の効率化によるコストダウン
- ・全乳製品カテゴリーでの強力なブランドポートフォリオの確立

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	要因	差異	内容
麒麟ビバレッジ	数量差異	64	販売数量増 585万ケース
	コストダウン	22	自工場製造効率アップ 他
	原材料コストアップ	△ 30	
	容器構成差異等	19	
	販売費増	△ 3	販売促進費・広告費増 △5億(新規連結の影響 △9億他)、運搬費減 2億 他
	その他費用増	△ 41	人件費増 △12億、研究開発費増 △6億、自動販売機投入増に伴う減価償却費増・販売機器費増 △5億、情報処理費増 △2億、新規連結の影響 △9億 他
計		31	
ナショナルフーズ	営業利益減	△ 17	81億→64億
	のれん償却額	4	△68億→△64億
	ブランド償却費	7	△27億→△20億
計		△ 6	
その他		31	
合計		56	H20年度実績 64 → H21年度予想 120

医薬セグメント:2009年計画

医薬

(単位:億円)	09年見込み	08年実績	前年比	増減
連結売上高	2,000	1,715	+16.6%	+285
連結営業利益	280	282	▲0.7%	▲2

営業利益は
全社・消去前

国内

【協和発酵キリン社】

・統合シナジーの拡大

研究開発:低分子医薬品に加え、強活性ヒト抗体などの
抗体医薬品の研究開発を効率的に実施

生産設備:治験用抗体製造設備を建設中

営業:主力の貧血治療剤「ネスプ」「エスポー」、
抗アレルギー剤「アレロック」、抗アレルギー
点眼剤「パタノール」、二次性副甲状腺機能
亢進症治療薬「レグパラ」等の着実な伸長を
目指す

海外

【協和発酵キリン社】

・米国研究開発拠点を機能別に再編し、運営の効率化を図る

- ー協和発酵キリンファーマ社へ開発機能を集約
- ー協和発酵キリンカリフォルニア社は研究機能に特化
- ーバイオワ社はライセンスビジネスに特化

・海外開発品の開発ステージ進展

- ーASKP1240(アステラス社と共同開発)、KRN23の
米国におけるフェーズⅠ開始(ともに1月)
- ーKW-0761の2009年中の米国フェーズⅠ開始予定

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン	△2	売上総利益増 163億 研究開発費増 △60億 その他費用増 △91億 のれん償却額 △14億
合計	△2	H20年度実績 282 → H21年度予想 280

その他セグメント:2009年計画

その他

(単位:億円)	09年見込み	08年実績	前年比	増減
連結売上高	2,650	2,338	+13.3%	+312
連結営業利益	130	182	▲28.9%	▲52

【協和発酵バイオ社】

- ・世界的な景気後退の状況であるが、成長が見込まれる医薬・健康食品市場向けアミノ酸を中心に、引き続き拡販を図っていく

【協和発酵ケミカル社】

- ・厳しい収益環境は 今後も当面継続すると思われる
- ・既存主力製品の強化とともに、環境関連の機能性製品など、特徴のある新製品の創出で収益安定化を目指す

【アグリバイオ事業】

- ・国内種苗ビジネスに注力し、既存商品の見直しと新有力品種導入を促進する

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン バイオケミカル	△ 32	74億→42億
協和発酵キリン 化学品	△ 22	35億→13億
その他	2	
合計	△ 52	H20年度実績 182 → H21年度予想 130

経常利益・当期純利益の増減（2009年見込み）

経常利益

営業外損益	金融収支	54	△164億→△110億
	持分法による投資損益	23	サンミゲル 20億※（うち過年度株式売却に係る未実現利益 消去 43億）、協和発酵工業 12億（うち過年度投資差額償却 額 10億）、キリンアムジェン △15億 他
	過年度為替差損	372	
	その他	20	
計		469	
経常利益増		220	H20年度実績 1,030 → H21年度予想 1,250

当期純利益

特別損益	過年度持分変動利益	△ 726	協和発酵工業株式交換
	過年度収用等補償金	△ 95	
	過年度投資有価証券評価損	56	
	過年度事業整理損失	27	
	その他	252	
計		△ 486	
法人税等及び	法人税等	37	
少数株主利益	少数株主利益	△ 2	△171億→△173億
計		35	
当期純利益減		△ 231	H20年度実績 801 → H21年度予想 570

※ サンミゲルは業績予想非公表のため、平成19年度実績（平成19年10月から平成20年9月の12ヶ月間）外貨額を平成21年度予想値としております。（為替換算レートは見直し）

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成20年度実績	平成21年度予想
ライオンネイサン（オーストラリアドル）（円）	97.38	62.00
ナショナルフーズ（オーストラリアドル）（円）	88.00	62.00
サンミゲル（フィリピンペソ）（円）	2.50	2.00

2009年財務戦略 ～株主重視の経営と資本効率の向上～

企業価値の最大化に向けて、株主重視の経営および飛躍的な成長を実現するための財務戦略を引き続き推進

キャッシュフロー

- ・09年度約1,430億円の営業キャッシュフローの創出
⇒設備投資、配当、社債・借入金の返済に使用

投資計画

- ・飛躍的な成長に向けた事業投資
⇒特に投資枠を定めず、個々の案件において検討・判断
- ・09年設備投資は1,200億円を予定（08年実績 1,260億円）

株主還元

- ・配当：安定配当の継続 08年度配当 23円（予定）
09年度配当 23円（予定）
 - ※ 08年度配当は2円増配
 - ※ 連結配当性向30%以上を指標：実質的利益水準の向上に伴う配当の増額を目指す
飛躍的な成長戦略に基づく事業投資によるのれん等の影響を勘案
- ・自己株式取得：財務体質の健全性を考慮した上で、自己株式の取得を検討

資金調達

- ・有価証券や不動産の売却、事業ポートフォリオの最適化による資金の創出
⇒総資産の圧縮へ
- ・事業投資に必要な資金の調達は、有利子負債の活用を主体とする
(D/Eレシオは0.5を目安とするが、一時的に1.0程度も許容する)

參考資料

ナショナルフーズ 2008年通期業績・2009年通期見込み

*キリン社連結決算短信開示ベース

	2008実 (百万豪ドル)	円換算ベース (億円)*	2009予 (百万豪ドル)	円換算ベース (億円)*
売上高	2,414	2,124	3,487	2,162
ナショナルフーズ	2,280		2,381	
デアリーファーマーズ	134		1,106	
EBIT (営業利益)	92	81	104	64
ナショナルフーズ	86		110	
デアリーファーマーズ	6		-6	
EBITDA (リストラコスト含む)	103	91	142	88
償却費	44		72	
統合コスト(リストラコスト)	-34		-34	

(換算レート) 2008年 88円 / A\$ 2009年 62円 / A\$(予)

※ 2008年デアリーファーマーズ社は12月分のみ

※ 2009年デアリーファーマーズ社EBIT(営業利益)内訳(A\$): 既存事業分 6 / 統合シナジー 32 / 一部事業譲渡 ▲44

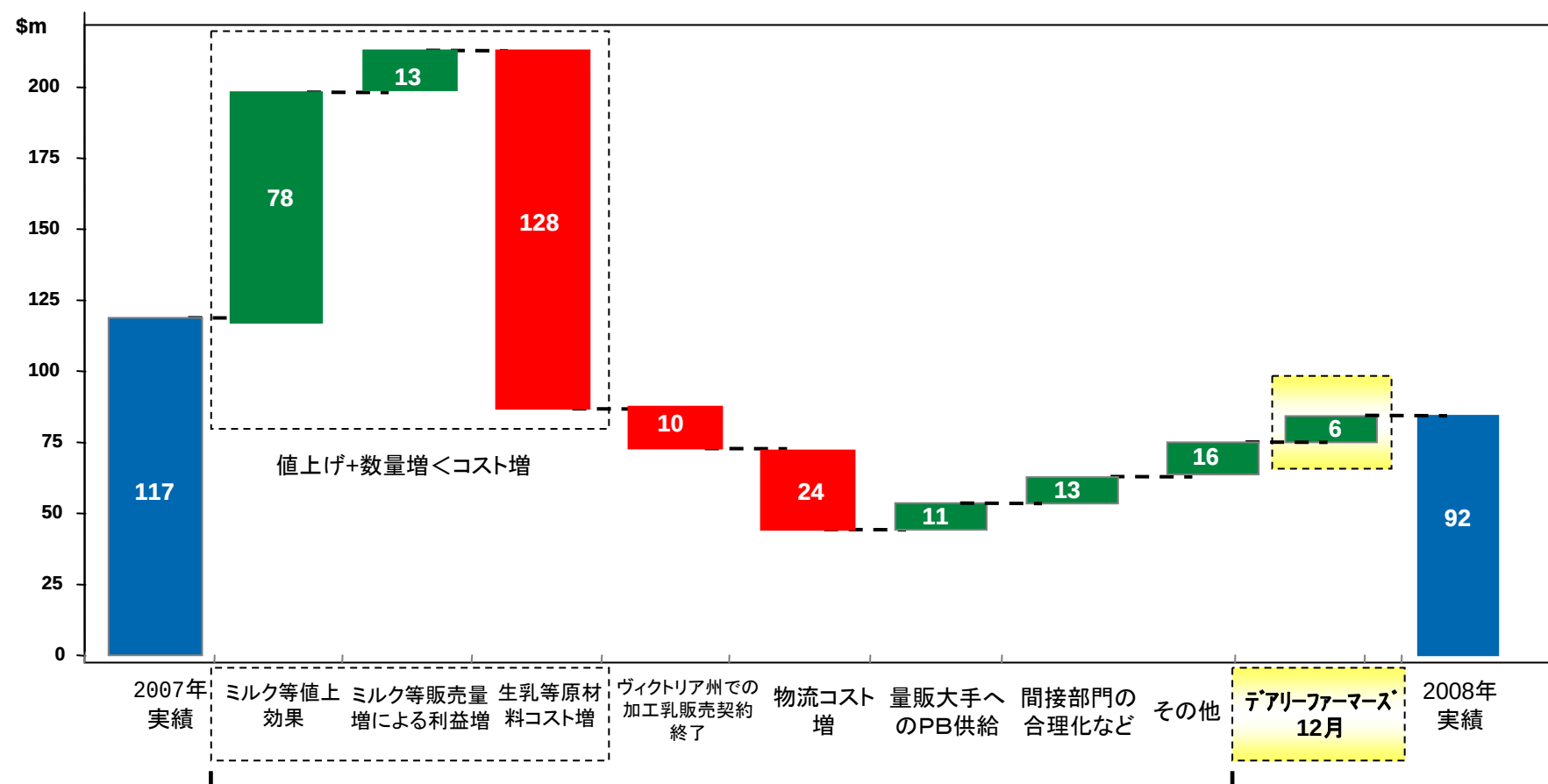
※ 上記はキリン社連結ベースの数値であり、リストラコストはEBITに含まない。(EBITDAに含む)

ナショナルフーズ 営業利益(EBIT)増減分析: 2007年実績 対 2008年実績

■ 2007年下半期以降の大幅なミルクコスト増が予想以上に影響

ミルクを中心に値上げ(4回)を行ったが、経済環境悪化等による低価格商品へのシフトもあり、コスト増をカバーするまでには至らなかった

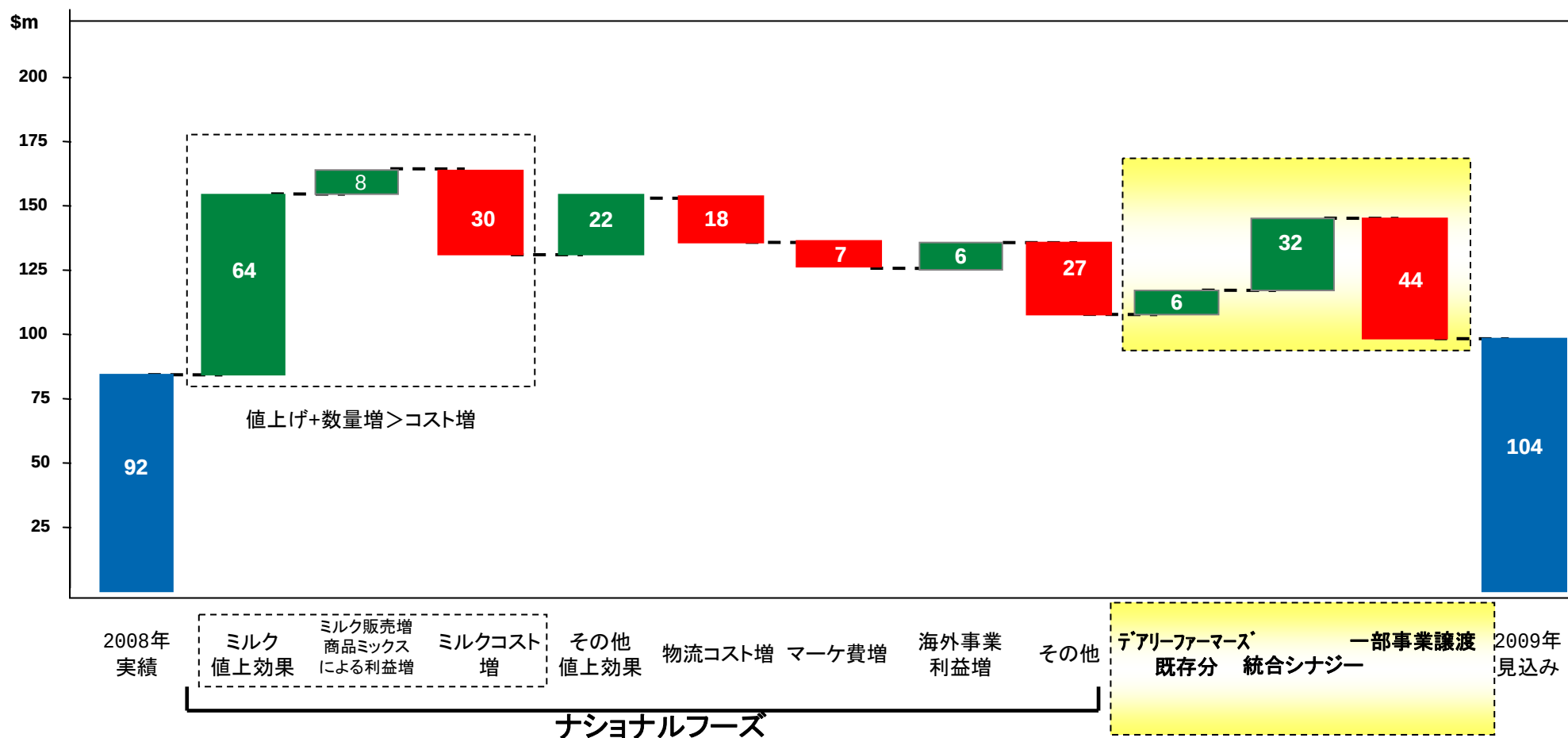
■ 燃料費高騰による物流コスト増も大きく、間接部門の合理化等によるコスト削減では追いつかなかった



ナショナルフーズ

ナショナルフーズ 営業利益(EBIT)増減分析: 2008年実績 対 2009年見込み

- ミルクコストの高騰は収まりつつあるが、既に契約締結済みの原乳もあることから、ミルクコスト増A\$30M見込む
- 上記に対して、「積極的な販促活動を通じたブランド強化」「NB、PBの値上げ」「海外事業の成長」などにより業績回復を目指す



ナショナルフーズ セグメント別 2008年実績(デアリーファーマーズ含まず)

	2008年	2007年	差	コメント
全体				単位: 販売数量 百万リットル 純売上高 A\$m
販売数量	1,495	1,467	28	
純売上高	2,124	2,006	118	
ミルク				・ミルクコストならびに輸送コストの高騰を販売価格に転嫁すべく値上げを実施。 →購買行動は低価格のPBにシフトし収益性が大きく低下。 ・11月にはデアリーファーマーズ社の買収を完了。
販売数量	864	815	49	
純売上高	973	895	78	
果汁飲料				・採算性の低い量販店へのPB契約を整理や値上げを実施。 ・しかし価格競争や低価格商品へのシフトからミックス悪化。 →数量・売上・利益率が前年下回る
販売数量	443	476	-33	
純売上高	497	510	-13	
乳製品				・ダイエット効果商品の発売ならびにスナックカテゴリー商品の新フレーバー追加により数量が拡大。値上げの効果と合わせて売上を大幅に増加
販売数量	84	64	20	
純売上高	276	212	64	
チーズ 等				・ミルクコストの高騰を販売価格に転嫁すべく値上げを行ったが、消費者の購買は低価格にシフトし、金額・販売量共に前年を下回った。 ・ヒルウッド社の買収、スモークサーモン事業の売却
販売数量	22	26	-4	
純売上高	226	247	-21	
海外およびニュージーランド				・東南アジア地域では、ブランド商品である高収益商品への移行ならびに輸出の好調が売上に寄与し、堅調に推移。 ・メラミン騒動にも関わらずクリームが好調
販売数量	82	86	-4	
純売上高	152	142	10	

※管理会計ベース

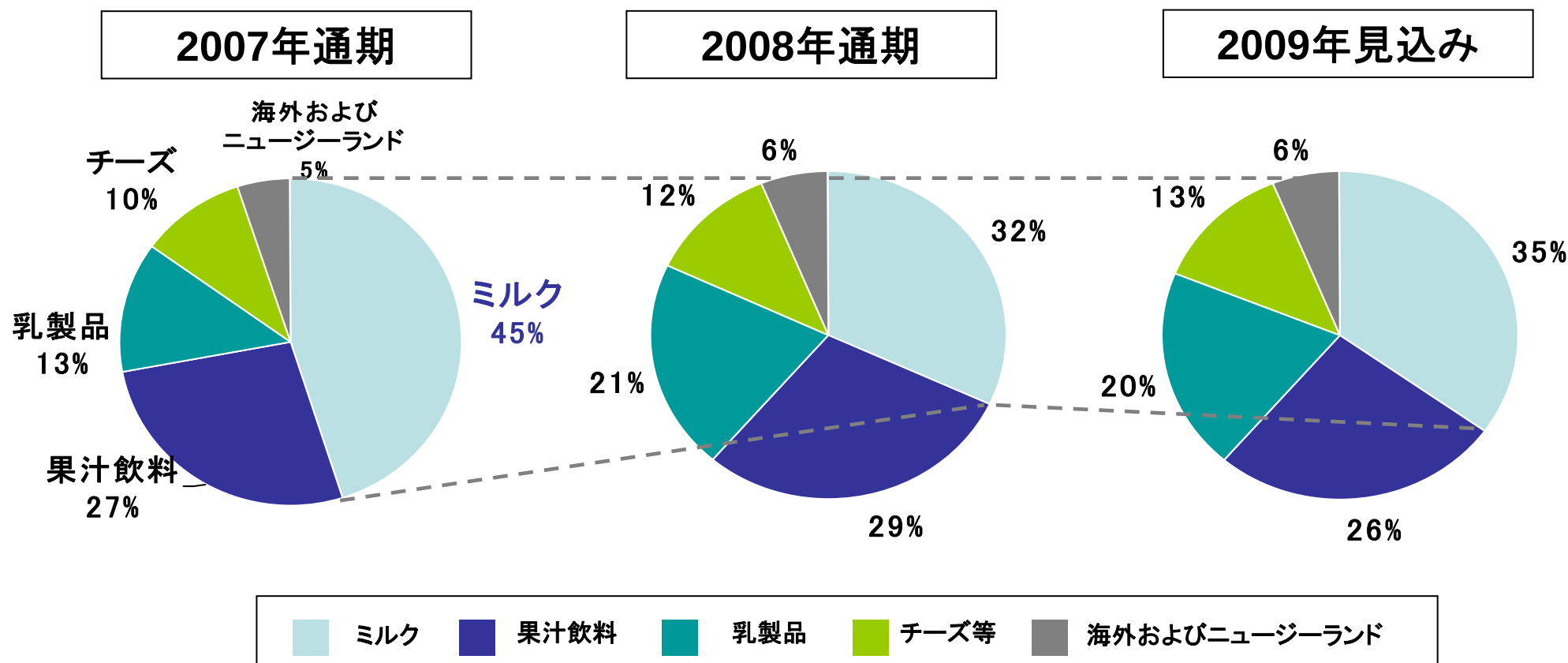
ナショナルフーズ セグメント別 2009年見込み(デアリーファーマーズ含まず)

	2009年	2008年	差	コメント
全体				単位: 販売数量 百万リットル 純売上高 A\$m
販売数量	1,487	1,495	-8	
純売上高	2,226	2,124	102	
ミルク				・ミルクコスト高騰の影響は2009年も残るが、PB・NBの値上げを実施→収益改善を図る ・販促費の抑制、DF統合に伴う価格交渉力アップも利益貢献
販売数量	891	864	27	
純売上高	1,030	973	57	
果汁飲料				・グローサリー(食料品店)を中心に価格の最適化ならびに販促を実施→シェア拡大へ ・長期的な視野からBerriのマスターブランド化を推進。新商品ラインアップ充実を図る。
販売数量	415	443	-28	
純売上高	504	497	7	
乳製品				・昨年参入したダイエット効果商品の更なる浸透、ならびに子供市場にターゲットをおいた商品の再発売により販売量を確保するとともに値上げも予定しており、売上増を図る。
販売数量	85	84	1	
純売上高	287	276	11	
チーズ等				・値上げならびに需給の管理レベル向上による高収益構造を目指す。 ・昨年のヒルウッド社買収により、フェタチーズの収益貢献とともに、新商品開発機能への寄与を見込む。
販売数量	18	22	-4	
純売上高	231	226	5	
海外およびニュージーランド				・ミルクコストの回復と豪ドル安の中で大幅な成長を図る。特にブランド商品の輸出に重点を置き、新商品の投入を通じて市場の拡大を図る。
販売数量	79	82	-3	
純売上高	174	152	22	

※管理会計ベース

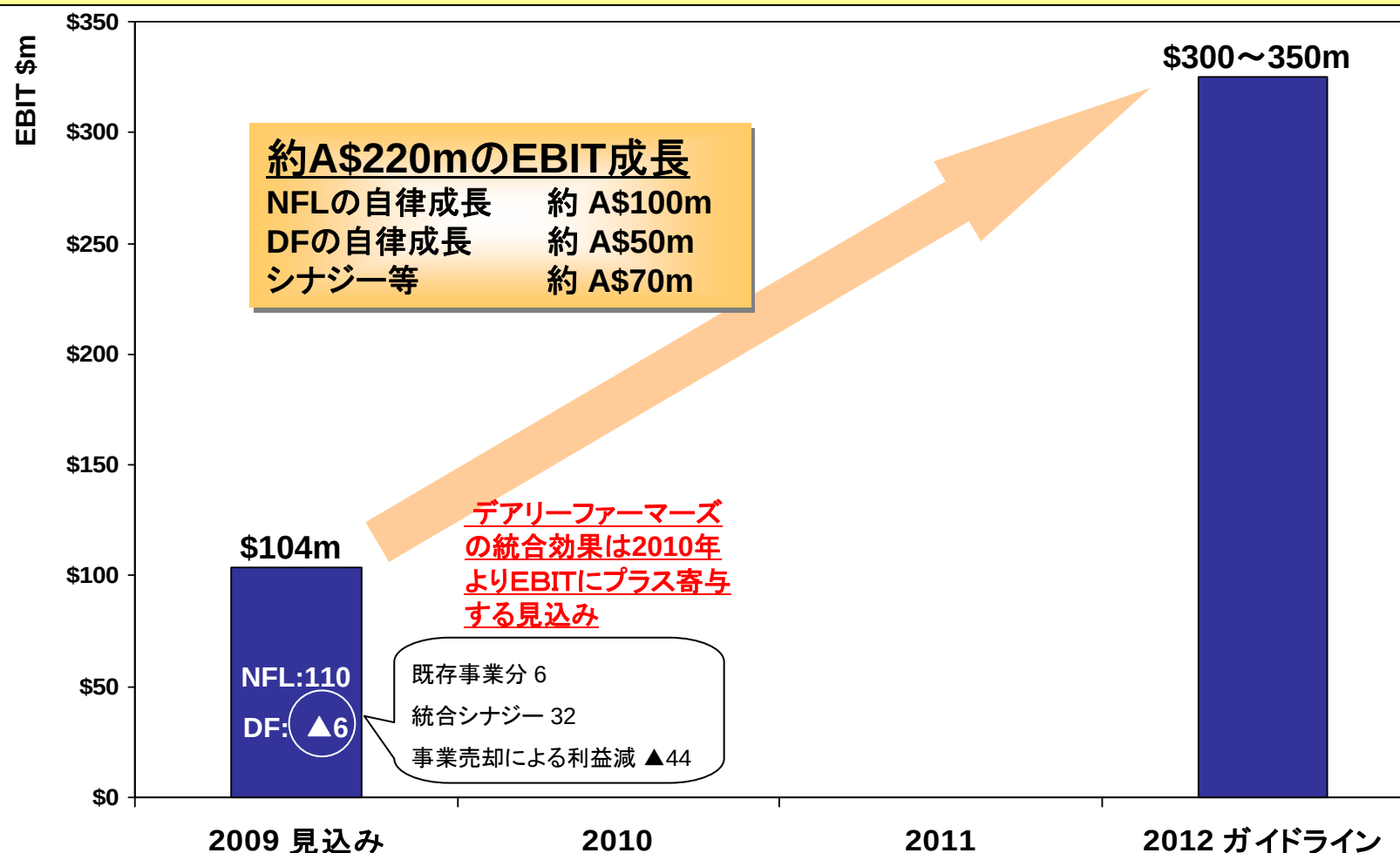
セグメント別 貢献利益 (Brand Contribution)構成比推移

- 08年上半期: ミルクコスト高騰の影響により、ミルクセグメントの貢献利益は26%に止まった
- 08年 通期: 値上げも貢献しミルクセグメント貢献利益は32%まで回復した
- 09年度見込み: 引き続きミルクセグメントの利益回復を目指す(DF社の数値は含まず)



ナショナルフーズ 営業利益(EBIT)成長イメージ

■ ナショナルフーズ、デアリーファーマーズ両社の自律的成長とシナジー創出で、2012年のEBITは\$300～350mを見込む



※ 上記は麒麟社連結ベースの数値(麒麟社連結時のれん償却等は除く)であり、リストラコストはEBITに含まない。

※ 2010年以降の目標は次期中計の中で具体化する。

ライオンネイサン 業績概況

2008年(2007年10月－2008年9月)業績 (単位：A\$m)

主として、豪州ビール部門の販売価格上昇・プレミアム商品へのシフト、Boags社の買収により、原材料価格上昇・減価償却費増を吸収し、9年連続の増益(営業利益ベース)を達成

■ Net Revenue (売上高): 2,094.2 (前年比 +6.5%)

豪州ビール部門は、販売価格上昇、プレミアムへのシフトが順調に進捗したほか、新規買収のBoagsが9ヶ月分貢献し、11.3%増と全体の成長を牽引。NZ部門は、ビール売上増も洋酒受託製造部門売上減がひびき-1.5%。ワイン部門はぶどうの供給過剰など厳しい業界環境の中で販社部門が健闘し、5.5%増となった。

■ EBIT: 507.0 (前年比 +7.3%)* *特別損益を除く

豪州ビール部門の堅調な伸びが、原材料価格上昇・減価償却費増を吸収、全体を牽引。ワイン部門の損益は在庫評価の好転もあり増益寄与。NZ部門は増益確保もNZ\$安により豪ドル換算では横ばい。

■ NPAT (当期純利益): 278.3* (前年比 +4.2%) *特別損益を除く

特別損益を含めると、NPATは272.7百万豪ドル、前年比で-3.3%の減益となる。(前年はNZオークランド工場用地売却等による特別利益を計上。本年はBoags社買収にともなうリストラによる特別損失を計上。)

■ 事業別概況

- ・豪州部門: 販売数量 + 4.6% (Boag社貢献分除く: +0.5%)、売上高 +11.3%、EBIT +7.9%*
- ・NZ(ビール、ワイン、RTD他)部門: 販売数量 + 1.6%、売上高** -1.5%、EBIT** +3.8% **NZ\$ベース
- ・ワイン部門: 販売数量 + 2.5%、売上高 +5.5%、EBIT +59.4%

2009年通期(2008年10月－2009年9月)業績ガイド (LN公表ペース、単位：A\$m)

■ NPAT (当期純利益): 300～315

景気減速が予想される中でも、ビール部門の堅調な伸び、新商品群とBoagsブランドの販売拡大等により、NPAT 300～315百万豪ドル(前年比10%超)の達成を目指す。

※ キリン社連結業績見込みには、2008年実績値に新為替予想のみを反映 (次頁参照)

ライオンネイサン キリンググループ連結決算への取り込み

(単位:億円)

2008	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書	2,039	485	388	265	122
ブランド償却		▲74	▲74	▲74	▲34
のれん償却		▲52	▲52	▲52	▲38
差引調整後	2,039	358	261	138	49
2007	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書	1,902	451	362	275	127
ブランド償却		▲69	▲69	▲69	▲32
のれん償却		▲40	▲40	▲40	▲32
差引調整後	1,902	341	252	165	62

期中平均レート(LN社P/Lに使用)
2008 1A\$ = 97.38円
2007 1A\$ = 96.72円

9月期末レート(LN社B/Sに使用)
2008 1A\$ = 82.87円
2007 1A\$ = 101.65円

12月期末レート(当社B/Sに使用)
2008 1A\$ = 62.61円
2007 1A\$ = 100.18円

2009通期見込み	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書	1,298	308	247	169	77
ブランド償却		▲48	▲48	▲48	▲22
のれん償却		▲43	▲43	▲43	▲34
差引調整後	1,298	216	154	76	21

予想平均レート(LN社P/Lに使用)
2009予 1A\$ = 62円

※ 2009年通期見込みには、LNの2008年実績値に新為替予想のみを反映
⇒ 為替の影響: 売上高 ▲741億円
営業利益 ▲142億円

ブランド償却 : LN社がM&A等で購入した無形固定資産の償却額。評価替え、為替変動の影響を受ける

のれん償却 : 購入時のプレミアム510億円の20年償却分(約25億円/年)

: 国際会計基準適用のLN社では2006年度より営業権償却を停止しているが、キリン社連結上は継続償却

※LN損益計算書は2007年及び2008年、2009年通期見込みはそれぞれ営業損益の一部を連結上、特別損益に組替えており、上記数値は組替後である。

サンミゲル 事業概要、業績概況

サンミゲル(SMC)社事業の進展 クイックサマリー

2007年7月より発電、送電、水、公共事業、鉱業、インフラ整備などの新規事業への参入を進める。10月に国内ビール事業を分社化、San Miguel Brewery Inc. (SMB)を設立。12月には豪州ナショナルフーズ社、タスマニアのビール会社Boags社を売却。

2008年5月には同社のIPOを実施、同社の発行済株式の5%程度を市場に放出する。10月にはフィリピン最大の配電会社Manila Electric Company社株式の27%を取得、12月には同国最大の石油精製元売会社であるPetron Corporation社の株式取得に向けオプション契約を締結。

業績概況

2006年度よりサンミゲル社(決算期:12月)の決算取り込み時期を変更。2007年度、2008年度ともにサンミゲル社の2006年10月-2007年9月、2007年10月-2008年9月を基礎として算出。

2007年10月-2008年9月

* 1ペソ=2.50円 (2007年10月-2008年9月平均レート)

売上高: 1,668億ペソ(約4,171億円、△30%)

営業利益: 142億ペソ(約356億円、△22%)

当期純利益: 224億ペソ(約560億円、+95%)

2006年10月-2007年9月

* 1ペソ=2.51円 (2006年10月-2007年9月平均レート)

売上高: 2,363億ペソ(約5,932億円、+43%)

営業利益: 181億ペソ(約454億円、+36%)

当期純利益: 114億ペソ(約287億円、+105%)

(参考) サンミゲル社主要グループ別売上高・営業利益推移 FY2008 1-9月

全主要部門で売上高が増加、連結ベースで前年同期比15%の増収に。営業利益は海外ビール事業が貢献し、前年同期比で26%の増益となった。当期純利益は、非中核事業の売却、SMBのIPOにより約200%の増に。

	構成グループ	2008	2007	Change
売上高	連結 (PHP billion)	122.2	105.8	+15%
	San Miguel Brewery	35,225	31,959	+10%
	Beer International (US\$ million)	213.0	170.5	+25%
	Ginebra SM	11,150	9,492	+17%
	San Miguel Food	53,103	44,792	+19%
	San Miguel Packaging	14,754	13,660	+8%

営業利益	連結 (PHP billion)	11.7	9.33	+26%
	San Miguel Brewery	10,763	8,776	+23%
	Beer International (US\$ million)	1.32	(2.02)	+165%
	Ginebra SM	621	543	+14%
	San Miguel Food	1526	1764	-14%
	San Miguel Packaging	978	504	+94%

当期純利益	連結 (PHP billion)	20.9	7.07	+195%
-------	------------------	------	------	-------

原文 <http://www.sanmiguel.com.ph/uploads/IR/SMC3rdqtr08results.pdf>

単位: 注記がなければ全て百万ペソ

サンミゲル キリンググループ連結決算への取り込み

(単位:億円)

2008	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	4,171	356	615	560	111
持分法投資損益			111	111	111
投資差額償却額			▲ 21	▲ 21	▲ 21
差引調整後			90	90	90
2007	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	5,932	454	389	287	57
持分法投資損益			57	57	57
投資差額償却額			▲ 21	▲ 21	▲ 21
差引調整後			36	36	36

期中平均レート(SMC社P/Lに使用)
2008 1PHP=2.50円
2007 1PHP= 2.51円

9月期末レート(SMC社B/Sに使用)
2008 1PHP =2.21円
2007 1PHP = 2.57円

2009通期見込み	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	3,337	284	492	448	89
持分法投資損益			89	89	89
投資差額償却額			▲ 21	▲ 21	▲ 21
差引調整後			67	67	67

予想平均レート(SMC社P/Lに使用)
2009予 1PHP =2.00 円

※ 2009年通期見込みには、SMCの2008年実績値に新為替予想のみを反映

2006年度よりサンミゲル社の決算取り込み時期を変更。2007年、2008年はそれぞれ同社2006年10月-2007年9月、2007年10月-2008年9月を基礎として計上。

投資差額償却額：株式購入時（2002年、2005年）のプレミアム428億円の20年償却分（約21億円/年）

医薬事業：パイプライン(1)

*2008年8月以降の変更事項

おいしさを笑顔に
KIRIN

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
がん・血液	KRN321 ネスブ	申請中 2008.11		がん化学療法に伴う 貧血治療剤	注射	Kirin-Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤。 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として 2007年7月より発売中。
	AMG531	PhⅢ		血小板減少症治療剤 (特発性血小板減少性紫斑病)	注射	Kirin-Amgen	血小板増殖刺激因子製剤 (契約に基づき開発は アムジェン・デヘロップメント(株)が実施)
	KW-2246	PhⅢ		がん疼痛治療剤	舌下錠	Orexo	
	KRN125	PhⅡ		白血球減少症治療剤	注射	Kirin-Amgen	持続型G-CSF製剤
	AGS-003		米国・カナダ PhⅡ	免疫賦活性 がん治療細胞医薬品 (腎細胞がん)	注射	Argos	
	AGS-004		カナダ PhⅡ	免疫賦活性 HIV 治療細胞医薬品	注射	Argos	
	KRN654	PhⅠ / Ⅱ		血小板増多症治療剤	経口	Shire	
	KW-0761	PhⅠ		抗悪性腫瘍剤 (血液がん)	注射	自社	ヒト化抗体 (がん領域以外および日本・中国・韓国・台湾以外の 開発/販売権を米国Amgen社へ2008年3月に導出)
	KW-2449		米国 PhⅠ	抗悪性腫瘍剤	経口	自社	
	KW-2478		欧州 PhⅠ	抗悪性腫瘍剤	注射	自社	
	ARQ 197	PhⅠ		抗悪性腫瘍剤	経口	ArQule	
	KRN330		米国 PhⅠ	抗悪性腫瘍剤	注射	自社	完全ヒト抗体

(2009年1月末現在)

医薬事業：パイプライン(2)

*2008年8月以降の変更事項

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
腎臓	PB94 フォスブロック/レナジェル		中国 申請中 2008.6	高リン血症治療剤	経口	中外製薬	本邦：発売中
	KRN321(注) ネスブ	申請中 2008.12	中国Ph II	腎性貧血治療剤	注射	Kirin-Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤。 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として 2007年7月より発売中。
免疫・アレルギー	KW-4679 アレロック		中国 申請中 2008.7	抗アレルギー剤	経口	自社	本邦：発売中
	Z-206 アサコール	Ph III		炎症性腸疾患治療剤 (クローン病)	経口腸溶製剤	ゼリア新薬	ゼリア新薬と共同開発。
	NU206		豪州 Ph I	炎症性腸疾患治療剤	注射	Nuvelo	
	ASKP1240		米国Ph I	臓器移植時の 拒絶反応抑制剤	注射	自社	完全ヒト抗体。 アステラス製薬と共同開発。
中枢神経系	KW-6002	Ph II b	米国 申請中 2007.4	抗パーキンソン剤	経口	自社	単剤投与 (Mono-Therapy) での臨床試験はPh II a(日本)。
	KW-6500	Ph II		抗パーキンソン剤	注射	Britannia Pharma.	
循環器	KW-3049 コニール		中国 承認 2008.9	狭心症治療剤	経口	自社	中国で高血圧症治療剤として 2004年12月より発売中。 (本邦：発売中)
その他	KW-7158	Ph II a		腸疾患治療剤 (過敏性腸症候群)	経口	自社	過活動膀胱/尿失禁での開発 は2006年9月に中止。
	KW-3357	Ph I		血液凝固阻止剤 (汎発性血管内凝固症候群)	注射	自社	遺伝子組換えアンチトロンビン製剤
	KRN23		米国Ph I	低リン血症性くる病 治療剤	注射	自社	完全ヒト抗体

(注) KRN321ネスブ(腎臓領域)につきましては、日本で腎性貧血(透析導入前)の申請を行いました。(中国では透析施行中の腎性貧血で開発中)

【上記以外のパイプライン】

フィリピンにおいてフィルグラスチム(G-CSF製剤)の承認申請中

韓国、台湾、タイにおいてネスブ(持続型赤血球造血刺激因子製剤)の承認申請中

香港、台湾においてレグパラ(二次性副甲状腺機能亢進症治療剤)の承認申請中

韓国においてレグパラの臨床薬理試験中

(2009年1月末現在)

のれん等償却（2008年期末）

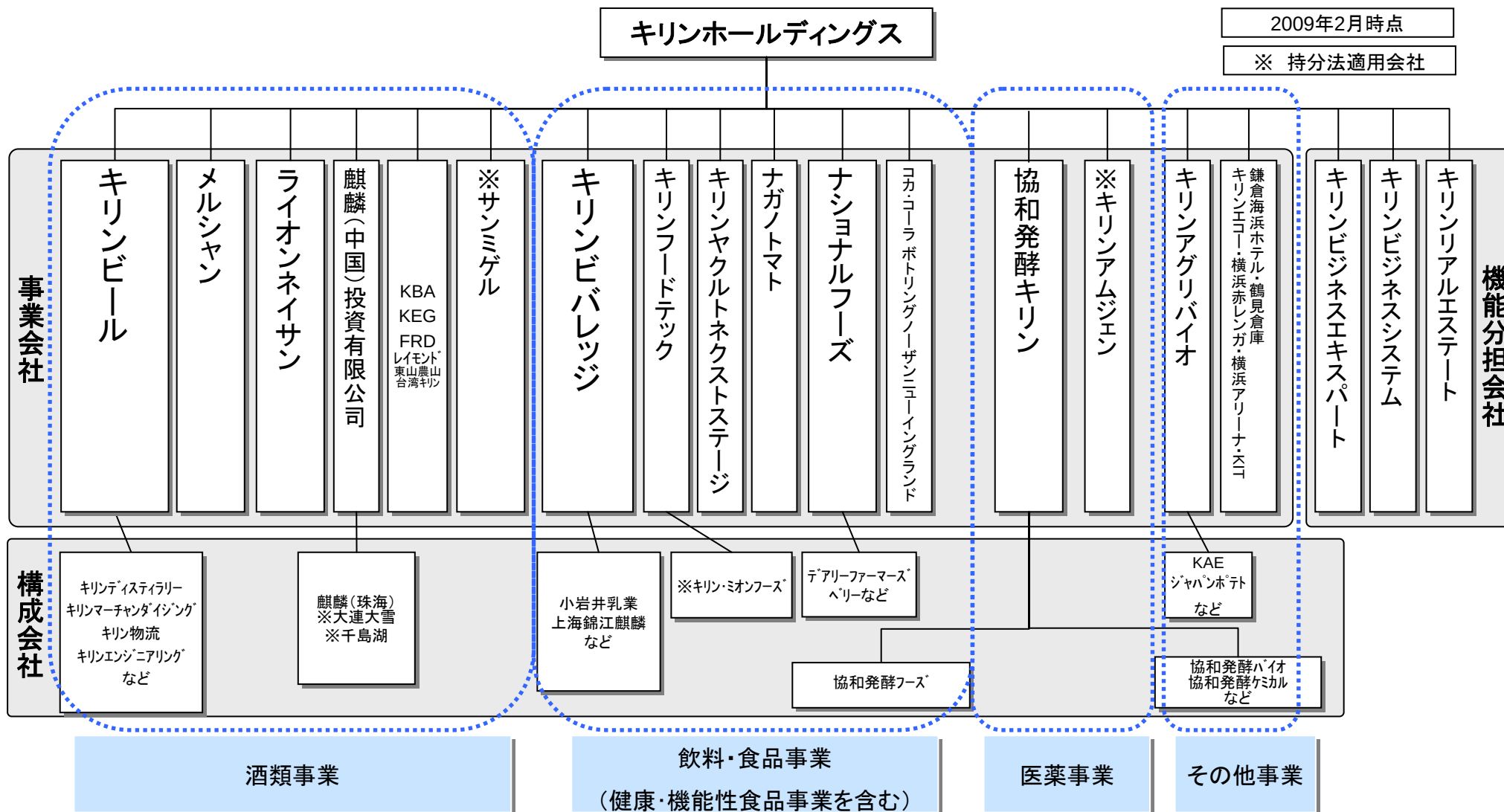
（億円）

	投資差額				営業権			ブランド			償却計
	取得年	償却額	未償却 残高	残年数	償却額	未償却 残高	残年数	償却額	未償却 残高	残年数	
LION NATHAN LTD.	1998	25	246	10	13	49	4	70	284	4	109
麒麟ビバレッジ	2006	19	348	18	—	—	—	—	—	—	19
その他		6			—	—	—	—	—	—	6
（計：2006年以前発生分）		52			13			70			136
協和発酵麒麟 ※1	2007	60	1,240	19	—	—	—	—	—	—	60
National Foods Limited ※2	2007	68	927	19	—	323	19	27	384	19	96
J. Boag & Son Pty Limited	2008	12	128	9	—	—	—	4	47	9	17
（計：2007年以降 新規投資分）		142			—			32			174
合計		193			13			102			310

※1:持分法投資損益 10億円含(1-3月 持分法適用関連会社)

※2:Dairy Farmers 含

キリングループ体制構造図（2009年2月時点）



KBA: キリン ブルワリー オフ アメリカ、KEG: キリン ヨーロッパ gmbH、FRD: フォアローゼス デイスティラリー、KIT: キリン インターナショナル トレーディング、KAE: キリン アグリバイオ EC

- ◆キリンフードテックは、2009年4月に協和発酵フーズと事業統合し「キリン協和フーズ」になる予定
- ◆キリンヤクルトネクストステージは、2009年6月を目処にヤクルトグループの事業運営となる予定

補足資料

損益状況（連結）

	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	実績		実績		予想	
	億円	%	億円	%	億円	%
売上高（対前年増率）	18,011	8.1	23,035	27.9	23,000	△ 0.2
営業利益（対前年増率）	1,206	3.7	1,459	21.0	1,210	△ 17.1
経常利益（対前年増率）	1,233	2.1	1,030	△ 16.5	1,250	21.3
当期純利益（対前年増率）	667	24.7	801	20.2	570	△ 28.9
EBITDA（対前年増率）	※1 2,131	11.5	※2 2,646	24.2	※2 2,691	1.7

※1 EBITDA = 税金等調整前中間(当期)純利益 + 支払利息 - 受取利息・配当金 + 減価償却費 + のれん償却費

※2 EBITDA = 営業利益 + 持分法による投資損益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 特別損益（持分変動利益を除く）

売上高明細（連結）

	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	実績		実績		予想	
売上数量（対前年増率）						
酒類	千KL	%	千KL	%	千KL	%
ビール・発泡酒・新ジャンル	3,388	△ 0.3	3,325	△ 1.8	3,306	△ 0.6
	百万C/S		百万C/S	※1	百万C/S	※1
飲料	239	4.5	241	0.5	246	2.4
売上高内訳（対前年増率）	億円	%	億円	%	億円	%
総売上高	18,011	8.1	23,035	27.9	23,000	△ 0.2
酒類	11,894	8.2	11,815	△ 0.7	10,950	△ 7.3
ビール・発泡酒・新ジャンル	9,708	2.4	9,597	△ 1.1	8,815	△ 8.1
その他の酒類	1,845	59.8	1,734	△ 6.0	1,720	△ 0.9
その他 ※2	340	△ 5.3	483	41.7	415	△ 14.1
飲料・食品 ※2	4,745	3.1	7,166	51.0	7,400	3.3
医薬品	699	4.0	1,715	145.3	2,000	16.6
その他 ※2	672	71.3	2,338	247.9	2,650	13.3
バイオケミカル	—	—	591	—	800	35.3
化学品	—	—	671	—	610	△ 9.2
アグリバイオ	215	14.6	210	△ 2.5	160	△ 23.9
その他	456	123.6	864	89.5	1,080	24.9

※1 ナショナルフーズにおける飲料事業の販売数量（平成20年度実績442,828KL、平成21年度予想415,000KL）は含まれておりません。

※2 事業の種類別セグメント情報における事業区分の変更については、決算短信25ページ（セグメント情報）a. 事業の種類別セグメント情報をご覧ください。なお、平成19年度実績につきましては変更後の事業区分の方法によって表示しております。

主要費用等(連結)

(単位:億円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	実績	実績	予想
販売促進費	1,814	2,012	} 2,525
広告費	690	720	
(販売促進費・広告費のうち)			
麒麟ビール			
販売促進費	923	476	} 791
広告費		364	
麒麟ビバレッジ ※1			
販売促進費	1,212	1,142	} 1,259
広告費		112	
研究開発費	285	540	635
減価償却費 ※2	719	959	1,000
のれん償却額 ※3	74	223	200
金融収支	△ 53	△ 164	△ 110
設備投資額(支払)	668	1,260	1,200
キャッシュ・フロー	△ 342	△ 275	230
営業活動	1,145	1,312	1,430
投資活動	△ 2,696	△ 1,693	△ 620
財務活動	1,215	266	△ 560

※1 キリンビバレッジ連結の数値(飲料・食品)であります。

※2 ブランド償却費を含んでおります。

※3 投資差額償却額(一時償却を含む)、営業権償却費

貸借対照表の主要増減内容(連結)

(単位:億円)

	平成19年度	平成20年度	増減	内容
(資産の部)				
流動資産				
受取手形及び売掛金	3,611	4,466	855	・新規連結子会社増による増加 ※1 他
その他流動資産計 (受取手形及び売掛金除く)	2,735	3,795	1,060	・新規連結子会社増による増加 ※1 他
固定資産				
有形固定資産				
有形固定資産計	6,359	7,913	1,554	・新規連結子会社増による増加 ※1 他
無形固定資産				
のれん	2,587	3,439	852	・新規連結子会社増による増加 ※1 他
その他	1,281	1,054	△ 227	・豪州連結子会社の為替影響による減少 他
投資その他の資産				
投資有価証券	7,122	4,253	△ 2,869	・キリンホールディングス保有関連会社株式の減少、及びキリンホールディングス保有株式の株価変動による評価差額の減少に伴う減少 他
その他	578	871	293	・キリンホールディングスの通貨スワップの増加 ※2 他
(負債の部)				
流動負債				
支払手形及び買掛金	1,392	1,895	503	・新規連結子会社増による増加 ※1 他
短期借入金	4,047	1,191	△ 2,856	・キリンホールディングスの減少 他
1年以内償還社債	—	441	441	・キリンホールディングスの増加 他
固定負債				
社債	928	2,428	1,500	・キリンホールディングス社債発行による増加 他
長期借入金	1,122	2,577	1,455	・キリンホールディングスの増加 他
繰延税金負債	883	557	△ 326	・新規連結子会社増による増加 ※1 及びキリンホールディングス保有株式の株価変動による評価差額の減少に伴う減少 他
退職給付引当金	601	827	226	・新規連結子会社増による増加 他
(純資産の部)				
その他有価証券評価 差額金	1,247	374	△ 873	・キリンホールディングス保有株式の株価変動による評価差額の減少 他
為替換算調整勘定	76	△ 887	△ 963	・円高による減少 他
少数株主持分	447	2,220	1,773	・新規連結子会社増による増加 ※1 他

※1「新規連結子会社増による増加」は主に、協和発酵キリン(協和発酵工業及びキリンファーマは平成20年10月1日付で合併し、社名を協和発酵キリンとしております)の株式取得によるものです。

※2 通貨スワップは、豪州子会社への外貨建て貸付金に対する為替変動リスクをヘッジする目的で実施しているものであります。

キリンググループ連結財務指標ガイド

			平成19年度 実績	平成20年度 実績	平成21年度 予想
定量 目標	売上高(億円)	酒税込み	18,011	23,035	23,000
		酒税抜き	14,006	19,228	19,300
	営業利益(億円)		1,206	1,459	1,210
	営業利益率(%)	対酒税込み	6.7	6.3	5.3
		対酒税抜き	8.6	7.6	6.3
	ROE(%)		6.5	8.1	6.0

(単位: 億円)

※1

平成19年度実績EBITDA = 2,131

税金等調整前当期純利益1,284 + 支払利息126 - 受取利息・配当金72 + 減価償却費719 + のれん償却額74

平成20年度実績EBITDA = 2,646

営業利益1,459 + 持分法による投資利益118 + 減価償却費959 + のれん償却額(一時償却除く)208 + 特別損益△99

平成21年度予想EBITDA = 2,691

営業利益1,210 + 持分法による投資利益141 + 減価償却費1,000 + のれん償却額200 + 特別損益140

※2 協和発酵工業との株式交換により発生した持分変動利益726億円を除いた数値で算出しております。

※3 のれん等償却 2006年以前発生分: 136

ライオンネイサン109(ブランド償却費70、投資差額償却額25、
営業権償却費13)

キリンビバレッジ19(投資差額償却額)他

※4 のれん等償却 2007年以降新規投資分: 174

ナショナルフーズ96(ブランド償却費27、投資差額償却額68)

協和発酵キリン60(投資差額償却額)

ジェイ・ボーグ・アンド・サン17(ブランド償却費4、投資差額償却額12)

ガイド ライン	セグメント別 売上高(億円)	酒類	11,894	11,815	10,950
		飲料・食品	4,745	7,166	7,400
		医薬	699	1,715	2,000
		その他	672	2,338	2,650
	セグメント別 営業利益(億円)	酒類	965	1,099	900
		飲料・食品	160	64	120
		医薬	130	282	280
		その他	63	182	130
		消去又は全社	△ 113	△ 169	△ 220
	海外比率(%)	酒税抜き売上高	19	27	24
	EBITDA(億円) ※1		2,131	※2 2,646	2,691
	のれん等償却 (億円)	①2006年以前発生分	139	※3 136	100
		②2007年以降新規投資分	—	※4 174	163
		のれん等償却計(①+②)	139	310	264
	EPS(円)	のれん等償却②前	70	※2 25	76
		のれん等償却後	70	84	60
	D/Eレシオ		0.58	0.72	0.69

連結セグメント別情報

平成20年度

(単位:億円)

	酒類	飲料・食品	医薬	その他	消去又は全社	合計
減価償却費 ※1	467	263	75	128	24	959
のれん償却費 ※2	55	100	47	5	—	208
EBITDA ※3	1,678	361	323	381	△ 99	2,646
設備投資	585	304	55	311	3	1,260
研究開発費	55	25	383	46	28	540

※1 ブランド償却費を含む

※2 投資差額償却額、営業権償却費

※3 EBITDA = 営業利益 + 持分法による投資損益 + 減価償却費 + のれん償却額(一時償却除く) + 特別損益(持分変動利益を除く)

平成21年度

(単位:億円)

	酒類	飲料・食品	医薬	その他	消去又は全社	合計
減価償却費 ※1	468	251	84	173	22	1,000
のれん償却費 ※2	46	90	58	4	—	200
EBITDA ※3	1,471	431	460	304	23	2,691
設備投資	531	225	134	193	115	1,200
研究開発費	52	33	443	68	37	635

※1 ブランド償却費を含む

※2 投資差額償却額、営業権償却費

※3 EBITDA = 営業利益 + 持分法による投資損益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 特別損益

主な連結会社別損益 2008年実績

平成20年度実績

(単位:億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結純利益
麒麟ビール(子会社) ※1	8,686	585	—	—	—
メルシャン(子会社)	927	6	5	1	0
ライオンネイサン(子会社) ※2	2,039	485	388	265	122
ブランド償却費		△ 74	△ 74	△ 74	△ 34
のれん償却費 ※3		△ 52	△ 52	△ 52	△ 38
差引調整後	2,039	358	261	138	49
麒麟ビバレッジ(子会社)	4,038	52	—	—	—
のれん償却費		△ 19	—	—	—
差引調整後	4,038	33	—	—	—
ナショナルフーズ(子会社)	2,124	81	—	—	—
ブランド償却費 ※4		△ 27	—	—	—
のれん償却費 ※3、4		△ 68	—	—	—
差引調整後	2,124	△ 14	—	—	—
協和発酵麒麟(子会社) ※5	3,622	426	432	104	52
のれん償却費消去 ※6		71	71	71	36
のれん償却費		△ 49	△ 49	△ 49	△ 49
差引調整後	3,622	448	454	126	38
麒麟ファーマ(子会社) ※1、5	91	△ 34	—	—	—
協和発酵工業(関連会社) ※5	944	69	52	△ 6	* △ 1
持分法による投資損益 *			* △ 1	△ 1	△ 1
投資差額償却額 ※7			△ 10	△ 10	△ 10
差引調整後			△ 12	△ 12	△ 12
サンミゲル(関連会社)	4,171	356	615	560	* 111
持分法による投資損益 *			* 111	111	111
投資差額償却額 ※7			△ 21	△ 21	△ 21
差引調整後			90	90	90

※1 単社の数値であります。

※2 ライオンネイサンについては、営業損益の一部を連結財務諸表上特別損益に組み替えており、上記は組み替え後の数値であります。

※3 投資差額償却額、営業権償却費

※4 取得原価の配分が完了したため、確定値に基づいております。

※5 協和発酵工業及び麒麟ファーマは平成20年10月1日付で合併し、社名を協和発酵麒麟としております。
また、協和発酵麒麟、協和発酵工業、麒麟ファーマは、以下の会計期間の数値を取り込んでおります。
協和発酵麒麟(子会社)・・・4～9月(麒麟ファーマを含む協和発酵工業連結)
10～12月(協和発酵麒麟連結)
麒麟ファーマ(子会社)・・・1～3月
協和発酵工業(関連会社)・・・1～3月

※6 協和発酵麒麟(連結)にて計上される、麒麟ファーマとの株式交換に伴い発生したのれん償却費につきましては当社連結決算にて消去しております。

※7 科目:持分法による投資損益

主な連結会社別損益 2009年予想

平成21年度予想

(単位:億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結純利益
麒麟ビール(子会社) ※1	8,596	528	—	—	—
メルシャン(子会社)	900	21	20	9	4
ライオンネイサン(子会社)※2	1,298	308	247	169	77
ブランド償却費		△ 48	△ 48	△ 48	△ 22
のれん償却費 ※3		△ 43	△ 43	△ 43	△ 34
差引調整後	1,298	216	154	76	21
麒麟ビバレッジ(子会社)	4,195	84	—	—	—
のれん償却費		△ 19	—	—	—
差引調整後	4,195	65	—	—	—
ナショナルフーズ(子会社) ※4	2,161	64	—	—	—
ブランド償却費 ※4		△ 20	—	—	—
のれん償却費 ※3、4		△ 65	—	—	—
差引調整後	2,161	△ 20	—	—	—
協和発酵麒麟(子会社)	4,047	308	306	150	75
のれん償却額等消去 ※5		93	94	94	47
のれん償却費		△ 65	△ 65	△ 65	△ 65
差引調整後	4,047	336	335	179	57
サンミゲル(関連会社) ※6	3,337	284	492	448	* 89
持分法による投資損益 *			* 89	89	89
投資差額償却額 ※7			△ 21	△ 21	△ 21
差引調整後			67	67	67

※1 単社の数値であります。

※2 ライオンネイサンの平成21年度予想については、営業損益の一部を連結財務諸表上特別損益に組み替えており、上記は組み替え後の数値であります。また、同社は業績予想非公表のため、平成20年度実績外貨額を平成21年度予想値としております。

※3 投資差額償却額、営業権償却費

※4 デアリーファーマーズを含んでおります。なお、デアリーファーマーズ関連のブランド償却費・のれん償却額の算出に用いた時価等につきましては、暫定値に基づいております。

※5 協和発酵麒麟(連結)にて計上される、麒麟ファーマとの株式交換に伴い発生したのれん償却額等につきましては当社連結決算にて消去しております。

※6 サンミゲルについては、平成19年10月から平成20年9月の実績外貨額を平成21年度予想値としております。

※7 科目:持分法による投資損益

酒類売上明細(キリンビール)

	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	実績		実績		予想	
売上数量(対前年増率)	千KL	%	千KL	%	千KL	%
ビール	1,001	△ 1.8	867	△ 13.4	802	△ 7.6
発泡酒	824	△ 4.9	811	△ 1.6	790	△ 2.6
新ジャンル	543	10.4	606	11.5	680	12.2
計	2,369	△ 0.4	2,285	△ 3.5	2,272	△ 0.6
RTD	200	△ 12.5	203	1.6	222	9.0
売上高(対前年増率)	億円	%	億円	%	億円	%
ビール	4,025	△ 1.5	3,567	△ 11.4	3,300	△ 7.4
発泡酒	2,431	△ 4.8	2,466	1.4	2,400	△ 2.6
新ジャンル	1,396	12.3	1,587	13.7	1,790	12.4
小計	7,854	△ 0.4	7,620	△ 3.0	7,490	△ 1.7
RTD	532	△ 11.9	544	2.2	590	9.3
焼酎・洋酒・ワイン・その他	424	17.7	436	2.8	420	△ 4.0

上記売上数量、売上高には輸出分を含んでおります。

清涼飲料売上明細1 (キリンビバレッジグループ)

<カテゴリー別>

(単位: 万ケース)

清涼飲料			平成19年度実績		平成20年度実績				平成21年度計画			
			販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	前年増減	前年比
カテゴリー別	茶系飲料	日本茶	3,036	15%	2,911	14%	△ 125	96%	2,950	14%	39	101%
		烏龍茶	385	2%	329	2%	△ 56	85%	300	1%	△ 29	91%
		紅茶	3,789	19%	3,763	18%	△ 26	99%	3,750	18%	△ 13	100%
	計		7,210	36%	7,003	34%	△ 207	97%	7,000	33%	△ 3	100%
	コーヒー飲料		3,481	17%	3,518	17%	37	101%	3,750	18%	232	107%
	果実・野菜飲料		2,810	14%	2,484	12%	△ 326	88%	2,300	11%	△ 184	93%
	炭酸飲料		655	3%	926	5%	271	141%	1,000	5%	74	108%
	水		3,816	19%	3,943	20%	127	103%	4,150	20%	207	105%
	その他		1,560	8%	1,731	8%	171	111%	1,630	8%	△ 101	94%
	国内市場清涼飲料計		19,532	97%	19,605	96%	73	100%	19,830	95%	225	101%
海外市場	海外市場清涼飲料計		714	3%	810	4%	96	113%	1,170	5%	360	144%
総合	清涼飲料計		20,246	100%	20,415	100%	169	101%	21,000	100%	585	103%

清涼飲料売上明細2(キリンビバレッジグループ)

(単位:万ケース)

<容器別>

清涼飲料			平成19年度実績		平成20年度実績				平成21年度計画			
容器別	区分	内訳	販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	前年増減	前年比
缶容器	缶	ボトル缶を含む	3,968	20%	4,390	22%	422	111%	4,700	22%	310	107%
PET容器	大型PET	2L	3,958	20%	3,947	19%	△ 11	100%	3,800	18%	△ 147	96%
		1.5L、1L、900ml、750ml	1,560	7%	1,724	8%	164	111%	1,600	8%	△ 124	93%
	大型PET計		5,518	27%	5,671	27%	153	103%	5,400	26%	△ 271	95%
	小型PET	500ml	5,134	26%	5,363	26%	229	104%	5,600	27%	237	104%
		350ml以下	2,601	13%	1,952	10%	△ 649	75%	1,900	9%	△ 52	97%
	小型PET計		7,735	39%	7,315	36%	△ 420	95%	7,500	36%	185	103%
	PET合計		13,253	66%	12,986	63%	△ 267	98%	12,900	62%	△ 86	99%
その他容器	ワンウェイ・リターナブル壺、紙、ギフト他		2,311	11%	2,229	11%	△ 82	96%	2,230	11%	1	100%
海外市場	清涼飲料計		714	3%	810	4%	96	113%	1,170	5%	360	144%
全容器	容器総合計		20,246	100%	20,415	100%	169	101%	21,000	100%	585	103%

医薬品売上明細(協和発酵キリン)

(単位:億円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	実績	実績	予想
エスポー/ネスブ	449	399	—
グラン/ノイアップ	148	165	—
コニール	—	181	—
アレロック	—	156	—
レグパラ	—	39	—
パタノール	—	22	—
トピナ	—	6	—

実績は国内仕切価ベース(割戻金除く)の表示であります。

平成19年度実績は、旧キリンファーマの数値であり、平成20年度実績における第2・第3四半期は旧キリンファーマを含む旧協和発酵の数値、第4四半期は協和発酵キリンの数値であります。

平成21年度予想については、協和発酵キリンにおける平成21年3月期決算発表の際に併せて公表予定であります。

おいしさを笑顔に

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

**This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation
or offer to buy or sell securities or related financial instruments.**